

医論第(85号)


(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Different natural courses of chronic hepatitis B with genotypes
B and C after the fourth decade of life

(B型慢性肝炎におけるゲノタイプBとCでは30歳以上でその予後が異なる)

氏名 前城達次 

目 的 :															
沖 縄 県 の HBs 抗 原 陽 性 率 は 日 本 全 体 の そ れ に 比															
べ て 高 率 で あ る が 、 B 型 肝 炎 ウ イ ル ス (HBV) 関															
連 肝 疾 患 に お け る 死 亡 は 低 率 で あ る 。 そ の 一															
因 と し て HBV の 遺 伝 子 型 (ゲ ノ タ イ プ) が 日															
本 本 土 で は C が 90% 以 上 を 占 め る の に 対 し て 沖															
縄 県 で は B が 60% 以 上 を 占 め 、 そ の 違 い が 自 然															
経 過 に 影 響 し て い る 。 今 回 、 肝 硬 変 進 展 に 関															
し 、 B 型 慢 性 肝 炎 発 症 年 齢 と ゲ ノ タ イ プ 別 の															
自 然 経 過 を 把 握 し 治 療 適 応 を 検 討 し た 。															
対 象 ・ 方 法 :															
1977 年 か ら 2005 年 ま で 当 院 及 び 関 連 施 設 を 受															
診 し た 145 例 を 対 象 と し た 。 慢 性 肝 炎 発 症 時 年															
齢 別 の HBe 抗 原 陽 性 率 を 、 ま た 6 ヶ 月 以 上 経															
過 観 察 可 能 で あ っ た 121 例 で 年 齢 別 、 ゲ ノ タ イ															
プ 別 の 肝 硬 変 進 展 率 を 検 討 し た 。															
結 果 :															
ゲ ノ タ イ プ B と C で 分 け た HBe 抗 原 陽 性 率 の															
検 討 で は 30 歳 未 満 で は 10 歳 毎 の 各 年 齢 群 に お															
い て HBe 抗 原 陽 性 率 は 高 率 で あ り ゲ ノ タ イ プ															

*要旨は3枚(1200字以内)にまとめること。

(20×20)




肝	炎	を	発	症	し	緩	徐	に	肝	硬	変	へ	進	展	す	る	症	例	を
認	め	た	。																
考	察	:																	
本	邦	に	お	け	る	HBV	持	続	感	染	者	は	幼	小	児	期	に	感	
染	し	、	ほ	と	ん	ど	が	HBe	抗	原	陽	性	無	症	候	性	キ	ャ	
リ	ア	を	経	て	30	歳	未	満	で	慢	性	肝	炎	を	発	症	す	る	。
30	歳	未	満	に	お	け	る	B	型	慢	性	肝	炎	の	肝	硬	変	進	展
率	は	ゲ	ノ	タ	イ	プ	B	と	C	で	差	は	認	め	ず	低	率	で	あ
り	、	絶	対	的	な	治	療	適	応	と	は	言	い	難	い	。	し	か	し
30	歳	以	上	で	ゲ	ノ	タ	イ	プ	CHBe	抗	原	陽	性	慢	性	肝	炎	
を	発	症	し	た	場	合	の	自	然	経	過	は	予	後	不	良	で	あ	り
こ	れ	ら	の	症	例	で	は	抗	ウ	イ	ル	ス	療	法	の	適	応	と	考
え	ら	れ	た	。	現	在	本	邦	に	お	け	る	抗	HBV	薬	は	そ	れ	
ら	の	薬	剤	を	使	用	し	て	も	HBV	を	完	全	に	排	除	す	る	
こ	と	は	不	可	能	で	あ	り	、	む	し	ろ	急	な	中	止	で	の	り
バ	ウ	ン	ド	や	耐	性	ウ	イ	ル	ス	出	現	な	ど	、	使	用	す	る
場	合	に	は	適	応	を	十	分	に	検	討	す	べ	き	で	あ	る	。	
我	々	が	検	討	し	た	HBV	ゲ	ノ	タ	イ	プ	及	び	年	齢	別	の	
自	然	経	過	は	上	記	抗	ウ	イ	ル	ス	薬	の	適	応	決	定	に	有
用	な	情	報	で	あ	る	と	考	え	ら	れ	る	。						

*要旨は3枚(1200字以内)にまとめること。

(20×20)

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 (論文博)	氏名	前城達次
論文審査委員		審査日	平成19年12月26日
		主査教授	松崎吉朗 
		副査教授	田中勇博 
		副査教授	上尾博 
(論文題目)			
Different natural courses of chronic hepatitis B with genotypes B and C after fourth decade of life			
(論文審査結果の要旨)			
1. 研究の背景と目的: 沖縄県ではHBs抗原陽性率が高いにもかかわらず、B型肝炎ウイルス(HBV)関連肝疾患における死亡率が低い。HBVのgenotypeは、日本本土では90%以上がCであるのに対し、沖縄県ではBが60%以上を占める。本論文では、B型慢性肝炎症例のHBVのgenotypeと、発症年齢並びに肝硬変への進展の関連を検討した。			
2. 研究内容: 1977年から2005年までのB型慢性肝炎145症例を対象とした発症年齢別のHBe抗原陽性率、及び6ヶ月以上経過観察可能であった121症例を対象としたgenotype別の肝硬変進展率を検討した。 その結果、30歳以下では、genotype B、C間にHBe抗原陽性率に差は認められなかったが、30歳以上ではgenotype Bに比べgenotype CでHBe抗原陽性率が高かった。肝硬変進展率も、30歳以上ではgenotype Cで有意に高かった。さらに、多変量解析の結果、30歳以上ではgenotype Cが肝硬変進展に寄与する因子として認められた。経過観察中に肝硬変に進展した症例の検討では、genotype Cでは12人中7人が30-40歳代でHBe抗原陽性慢性肝炎を発症し急速に肝硬変へ進展した。一方、genotype Bでは、8人中5人が40歳以降にHBe抗原陰性慢性肝炎を発症し緩徐に肝硬変に進展した。 以上の結果から、HBVウイルスのgenotype決定は、30歳以降の治療方針決定に有用であり、HBe抗原陽性慢性肝炎を発症したgenotype Cの症例は抗ウイルス治療の適応が高いと考えられた。			
3. 研究成果の意義と学術的水準 本研究は、HBVのgenotype Bとgenotype CによるB型肝炎の予後の違いを明らかにした。この結果は、今後のB型肝炎の予後の推定と治療方針の決定に重要な知見と考えられる。 以上により、本論文は学位授与に十分値するものと判断した。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
3 *印は記入しないこと。